

汗は 黄ばみ、ゴワゴワの原因。 だから早めに取り除きましょう！



去年洗ったはずなのに、この夏いざ着ようとしたら脇の下が黄色くなってる～。これじゃ着れない。

この脇の下や衿が黄色くなるのは、ほとんどが皮脂（身体から出る物質）と汗。これらは時間が経つと「酸化」といって茶色や黄色に変色します。そしてこうなるとドライクリーニングでも水洗しても落ちない。じゃどうすんのよ。

カギは「時間」！。1ヶ月も放っておけば黄ばみますよそりゃ。汗は早いうちなら洗剤なしで「水」だけでも取れる。特に夏は汗が多くなるのでこまめに洗いましょう。

それと汗をかいた衣類をドライクリーニングだけ繰り返していると、だんだん硬くなっていくことがあります。例えばパパのズボン。クリーニング屋さんに出してるけど何かゴワゴワしてくることはありませんか。アレは、汗が取り切れてないんです。ドライは油性の汚れは得意だけど汗のような水性汚れは苦手。だから夏場クリーニング屋さん頼む時は、時々「水洗い」をお願いした方がいいですよ。



脱水は30秒～1分。
短めがポイント！

家庭洗濯できない衣類の汗をとる、もっと詳しい方法を知りたい方は別紙をご覧ください！

ただ、問題は家庭洗濯機で洗えない衣類。

縮みやすい生地（ウール、レーヨン、アセテートなど）ですね。これはおしゃれ着洗いの中性洗剤でつけ置き洗いするしかない。洗濯機で回すと縮むので絶対気をつけて下さいね。とにかく静か～に洗いましょう。

柳屋はボタンや装飾品や付属品をこうして守ります。

クリーニングに出したら、ボタンが割れて返ってきた。ベルトのバックルが割れてしまってる。セーターのビーズ飾りが外れてる。。。そんな経験はありませんか？

クリーニング屋のドライ機は家庭のよりずっと大きいです。ということは沢山洗えるけど洗濯時の「落下の衝撃」も大きい。だからボタンや装飾品が壊れやすいのです。

1, 仕分けの段階でグループ分けして洗う

壊れやすいボタンや飾りが付いた物は普通の物と一緒に洗ったらめちゃくちゃになります。だから仕分けがとて重要なのです。

「時間を短く。。通常20分→10分」とか「強さをソフトに。。通常1回転→半回転」などなるべく細かくグループに分けてネット洗います。

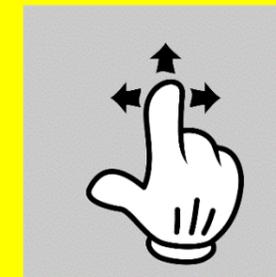


2, ボタンはカバー

ボタンはプラスチックの専用カバー、アルミホイル、マジックテープなど大きさや厚みに合わせて工夫して保護しています。たとえ一つでも高価なボタンがあれば注意が怠れません。



マスター前田 今月のゴッドハンド



100%綿の濃い色のワンピース。左袖に血液が付いてしまい市販のシミ抜き剤で試したが取れないというご相談品でした。

シミが取れないだけでなく、シミ部分をこすったりもんだりしたので白く脱色していました。今回は酵素で血液を除去した後、修正剤で色の白けも戻してほとんど目立たなくできました。

綿、麻の濃い色は、こすったりブラッシングして擦れると白く色が抜けてしまいます。とっても注意があるので気をつけて下さいね。

赤や紺、黄色。綿、麻の濃い色は絶対こすっちゃダメ！ 白くなりやすいよ。

なぜ、綿は脱色しやすいのか？ それは「綿は染料がのりにくい生地だから」。逆を言えば「染料が落ちやすい生地」なのです。だから特に濃い色は染料が落ちやすい。「白いTシャツと一緒に洗ったら色が付いた」という話もよく聞きます。ところがウールはそんなに色落ちしないんですよ。

では、濃い色の綿はどうすればいいのか？

まずシミが付いてもそこだけ「たたく」「こする」は禁物。おしゃれ着洗用中性洗剤を端っこでテストして色落ちがなければ

「衣類全体を洗剤に浸けて静かに洗う」。

これしかないですね。濃い色の綿製品を買うときは「シミ抜きしにくいぞ」と覚悟して買った方がいいですよ。とは言っても、カッコいい服を見るとつい買っちゃいますよね～(*^▽^*)

ガード加工っていう手もあるよ

撥水ガードという、レインコートや雨具を連想するかもしれませんが、綿のブラウスにもできます。シミが付いても落ちやすいので特に濃い色の綿ブラウスにはお勧め。加工料 ¥700



綿ブラウスに付いた水滴もコロコロに！